

## 学校教育における緑化活動とソーシャルキャピタルについて Greening activities and social capital in school education

○伊藤輝\* 高橋弘\*\* 嶋栄吉\*\*

HIKARU Ito\*, HIROSHI Takahashi\*\*, EIKICHI Shima\*\*

### 1. はじめに

初等教育における自然体験、環境教育の重要性については数々論じられてきた。2003年に「環境教育推進法」が施行され、学習指導要領でも環境教育が明確に位置づけられた。推進法に基づき策定された「環境教育推進グリーンプラン」では、環境教育に関する優れた取り組みの促進・普及や環境教育に関する研修などを実施、実践している。その環境教育の中でも緑化活動は活動を通じて命の大切さを知り、動植物や人間に対して思いやりを持って接する態度を育てるとして重要視されている。昭和58年から文部科学省が制定した「緑化運動の推進要領」でも①緑化運動の推進、②緑化環境の整備、③環境緑化教育推進地区の設定等が各都道府県教育委員会に促されている。

しかし、篠部(2001)<sup>1)</sup>によると小・中学校ともに教員が置かれた現状の指導體制では、時間的な制約から緑化教育活動に十分携われないという問題点を抱えていると指摘している。この様な時間的な問題点を解決する上でも、地域社会との連携を図り、地域住民の支援を得ながら緑化教育活動を拡充させていくための仕組みづくり、つまり社会的ネットワークづくりが今後の重要な課題であると論じている。そこで本報告では課題解決の手段として、緑化活動へのソーシャルキャピタル(以下 SC)の展開と方向性について述べる。

### 2. SC の定義と方向性

近年、SCという言葉が注目を集めている。空閑(2010)<sup>2)</sup>によるとSCの概念は、さまざまな分野の研究者がこの概念を扱い、それぞれが独自の定義を試みているため、論者によりその定義が異なる。とはいえ、現在この概念が幅広く注目され、適用して社会現象や社会構造を分析しているのは、地域や組織における人のつながりを指す概念であり、持続可能な社会の政策決定に有効であると考えられるからである。実際、国や国際機関がSCは公共政策において重要な概念と認識し、SCに関する積極的取り組みを行っている。現状ではアメリカや日本はパトナム(1993)<sup>3)</sup>の定義「協調的行動を用意することにより、社会の効率を改善しうる信頼、規範、ネットワークなどの社会的仕組みの特徴」を使用している。

また、現在社会はハードからソフトへ移行している傾向にある。第2次世界大戦前の日本の経済では農業が大きな比重を占めていたが、戦後は工業が発展し、重厚長大産業が中心になっていた。これらを扱うことで周辺産業も活性化し、高度成長といわれる時代を築いた。その重工業中心の産業構造が変化したきっかけは73年の石油ショックである。重厚長大産業がよりコストの安い海外に生産拠点を移す、あるいは輸入に切り換えるなど伸び悩み始めると、入れ替わるように日本の産業はソフト化・サービス化へと変化していった。これらの産業はいわゆる「第3次産業」としてくられることもあるが、鉄など形のある

\*北里大学大学院獣医学系研究科 Graduate School of Veterinary Medicine, KITASATO University

\*\*北里大学獣医学部 School of Veterinary Medicine, KITASATO University

キーワード: 社会計画、ソーシャルキャピタル、緑化活動

もの(ハード)に対して、形のない情報や知識、付加価値などのソフトやサービスそのものが経済の主役となってきた。

### 3. 今後必要とされる SC の考え方

そして SC は、Fig.1 で示すように経済学では「社会共通資本」(インフラストラクチャー)と訳され、電気水道や道路といった都市基盤のようなハードな資本を意味する語として使われている。しかし本研究で説明する SC は社会学におけるものであり、人やグループ間の信頼・規範・ネットワークといったソフトな社会的資本であり、より直接的には「社会関係資本」と訳されることも多い。またインフラは民間事業として成立しにくいいため主に国家や公共機関が着手するのに対し、SC は地方や地域住民も参加可能である。なぜなら、地域住民は便益が大きければ大きい程地域活動に参加する傾向にあるが、SC は個人的な行いが不特定多数の他人に広く利益をもたらすからである。つまり、社会がハードからソフトに移行しつつあるようにハードなインフラよりもソフトな SC に移行しつつあり、SCの方が地方や地域住民が参加活動することが可能なのである。

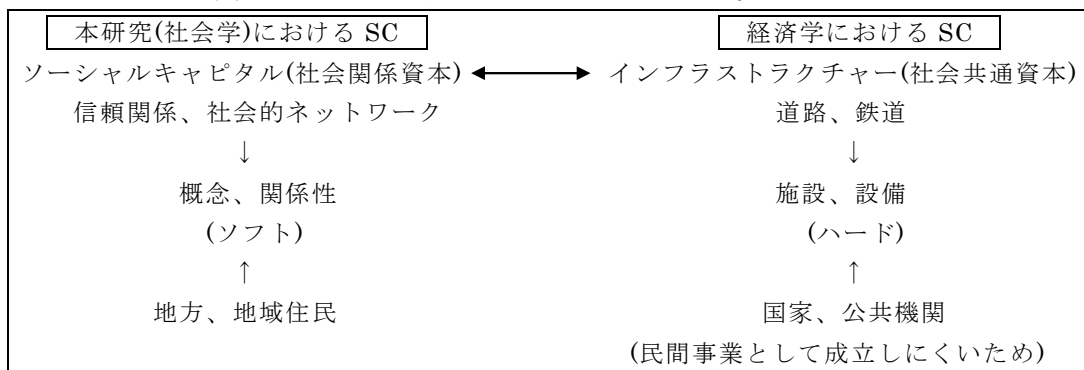


Fig.1 ソーシャルキャピタルとインフラストラクチャーとの比較

Comparison of social capital and infrastructure

### 4. 学校教育における緑化活動へのソーシャルキャピタルの展開と方向性

そもそも学校教育における緑化活動を実践する生徒達は価値観が多様であるが、緑化活動はそれを実践することで価値観を共有することができる。しかし、1で述べたように緑化活動は学内だけの活動では社会的ネットワークが構築されないという課題がある。そこで打開策として2で述べたようにSCの蓄積による社会的ネットワークの構築が考えられる。SCならば地域住民も活動へ参加することができ、社会の流れもそうなりつつあるからである。そのためには学内における活動にとどまらず、学外におけるボランティア活動など市民活動への積極的な参加、地域との協力が必要であり重要であると考えられる。

### 5. まとめ

学校教育における緑化活動は時間的な制約から指導体制に課題があり、地域社会・地域住民との連携・協力が必要である。本研究では学外での市民活動への参加による SC の展開と方向性について具体的な事例に基づき検討する。

#### 引用文献

- 1) 篠部裕 (2001) : 緑化教育活動からみた市民参加による都市緑化の現状と課題、日本建築学会技術報告集 第14号、299-302.
- 2) 空閑睦子 (2010) : ソーシャル・キャピタルに関する先行研究の整理 : 今日までにおける定義の概要と文献サーベイから見た日本の研究の動向、CJC policy studies review 27、39-49.
- 3) Putnam, R. (1993) : "Making democracy work, Princeton University Press (河田潤一訳 (2001) 『哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造』 NTT 出版)